

漢字

で悩活、気持ちも

イキイキ

漢健サロンのを広げたい SNSグループ



村瀬 幸子さん

中川 法夫さん

清水 佐代子さん

漢字検定で健康づくり
面白い組み合わせだから
先生も勉強しながらみんなで楽しんでいる



小学生と高齢者が一緒に模擬テスト(下之郷自治会)



下之郷自治会の漢健サロン



浮気自治会の漢健サロン



赤野井自治会の漢健サロン

下之郷自治会、浮気自治会、赤野井自治会では、漢字検定を用いて健康づくりにつなげる「漢健サロン」が行われています。今回は、各サロンの指導をしながら、「漢健サロン」を市内のたくさん自治会や地域に広げていこうと活動している「SNSグループ」取材しました。

漢字検定で健康づくり 元教師の新しい挑戦

誰もが毎日読み書きしている漢字。日本漢字能力検定の10級(初級)は、小学1年生で習う漢字が出題されます。

3人の元教師(中川法夫さん、清水佐代子さん、村瀬幸子さん)の名前イニシャルを組み合わせた「SNSグループ」は、「漢字検定を用いた健康サロンに取り組み地域を増やしたい」と活動しています。

下之郷に住む、元国語教師の中川さんは、退職後に漢字検定に挑戦し、準一級まで合格しま

書くことも、先生に当てられた時のドキドキも、すべてが脳活になります。サロンの前半は漢字検定のドリル、後半は漢字パズルや言葉を用いたゲームなど遊び感覚で楽しむようにしているそうです。

気持ちは小学1年生 うれし懐かし脳活サロン

しく勉強して検定に合格。今は9級を目指して勉強しています。ご夫婦教組も仲良く参加。指導にあたる私もうれしです」と話していました。

もう一つ、漢健サロンの大きな役割が地域の仲間づくりと異年齢交流だそうです。4月に入学した新小学1年生も、翌年の4月〜6月は高齢者と一緒に模擬テストを受けて検定本番に臨みます。子どもたちのテストを採点する先生は「おじいさんとおばあさん」です。

「外に出にくい高齢者が自治会館まで来てくれて、仲間と出会い、ゆるやかな目標を目指して楽しんでもらうのが目的。元教師の私たちも、改めて漢字を勉強したり、どうしたら楽しく勉強できるかなと考えたりして脳活になっていると思います。まずは市内の自治会に、将来は県域にまで漢健サロンを広げたい」と大きな夢を話していました。

したが、順調に参加者が増えていくそうです。

ドリルを解いて答え合わせ 思い出も勉強もよみがえる

10級の漢検ドリルを解いてみると、確かによく知っている漢字なのですが、筆順やトメ・ハネ・ハライなど細かい部分はうる覚えなものです。一生懸命に思い出しながら机に向かってドリルの問題を解き、仲間たちと答え合わせをします。先生に当てられて懐かしいチヨークで黒板に書くこともあります。子どもの頃を思い出すことも、漢字の細かい部首や書き順を考えて

をもらえるといっています。SNSグループの活動は、このほど社会教育委員会事業になりました。「漢字検定はあくまで楽しく脳活するツールなので、検定の勉強はしますが受けなければならぬという決まりはありません」。